
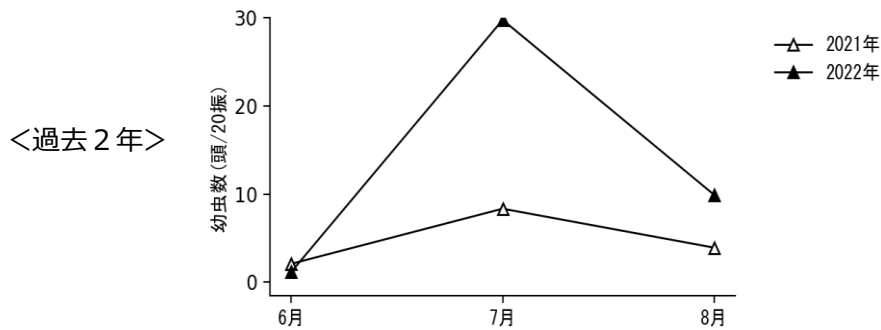
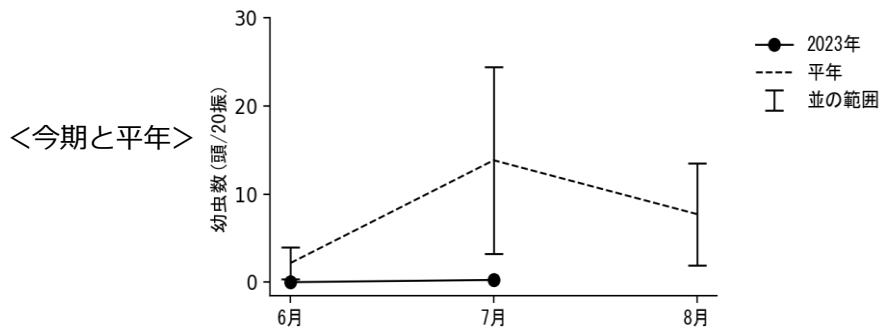


作物	さとうきび		地域	八重山群島
病害虫名	バッタ類			 タイワンツチイナゴ
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	やや少		
予報	7 月からの増減傾向	↓		
	8 月の発生量 (平年比)	やや少		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

幼虫数の推移




- ・発生種：タイワンツチイナゴ
- ・発生ほ場率16.7% (平年：92.9%)

防除のポイント

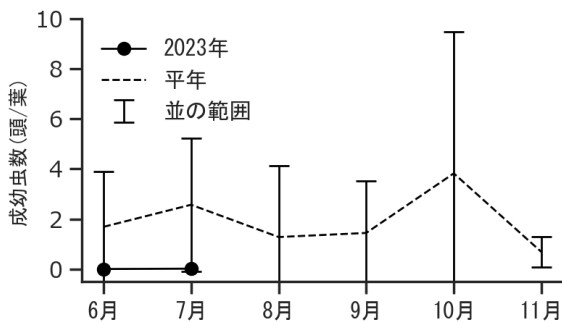
- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一齐防除を行うと効果的である。



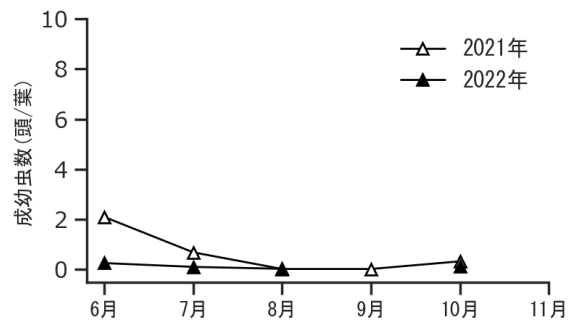
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	7 月からの増減傾向	↘	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

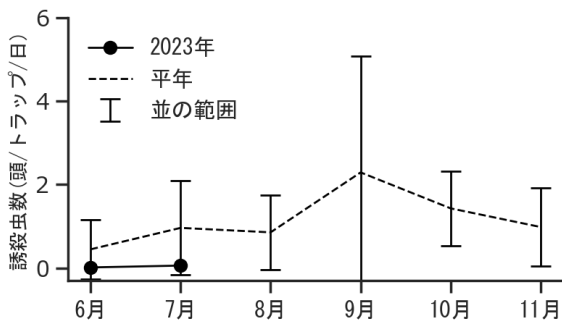
葉当たり成幼虫数の推移 (今期と平年)



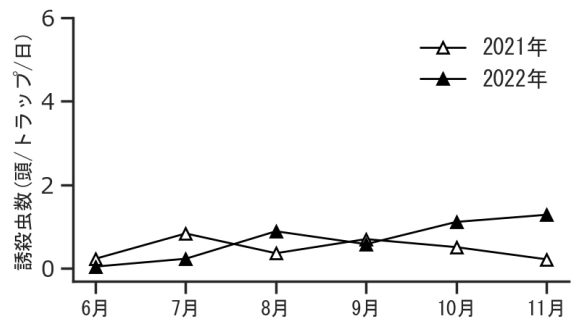
葉当たり成幼虫数の推移 (過去2年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (今期と平年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (過去2年)




・発生施設率20.0% (平年：54.2%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

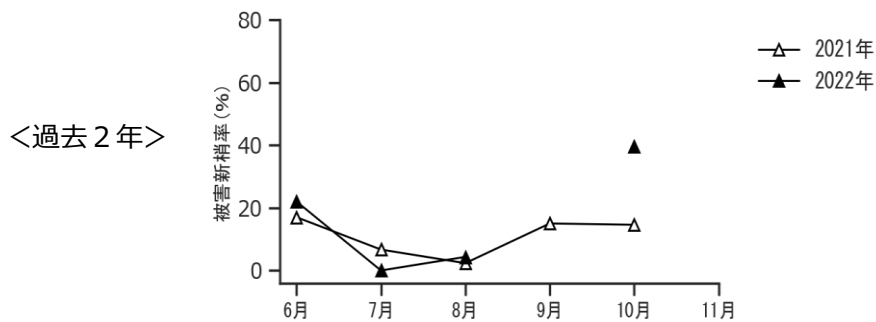
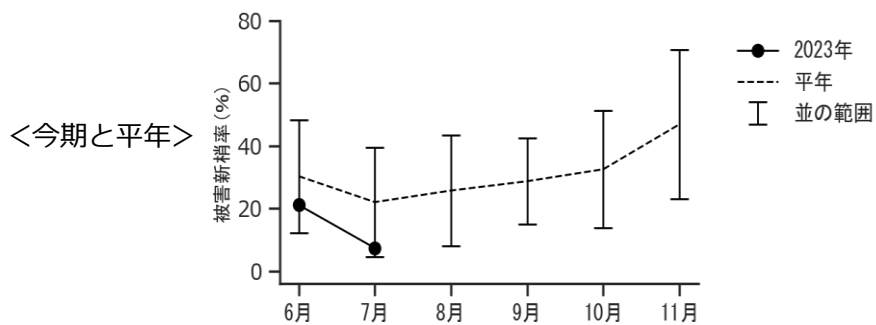


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

被害新梢率の推移




・発生施設率40.0% (平年 : 50.0%)

防除のポイント

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

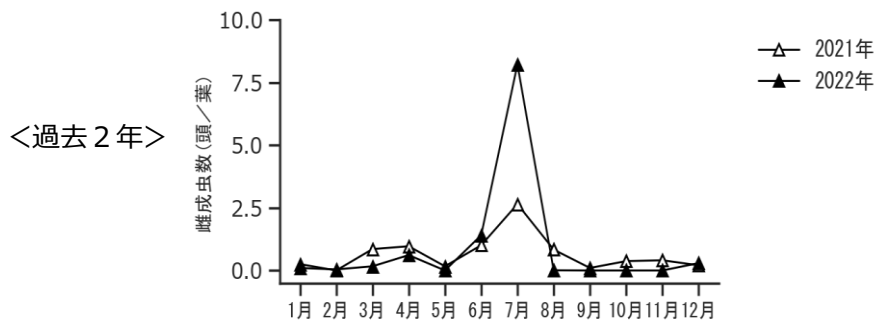
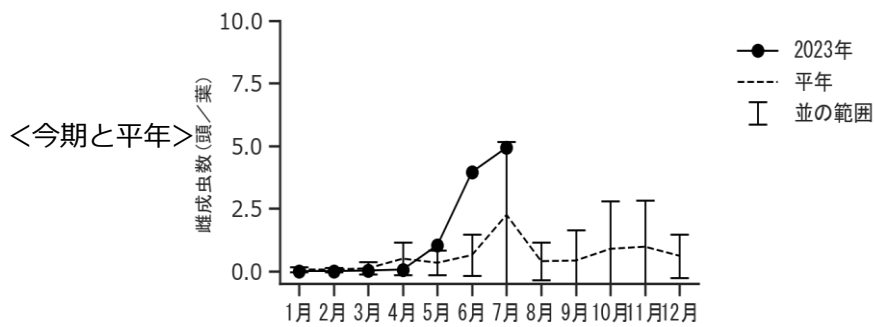


被害葉

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	↓	
	8 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

雌成虫数の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 36.7%)

防除のポイント

- ・収穫終了後の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。




ハダニの寄生による果実のまだら症状



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

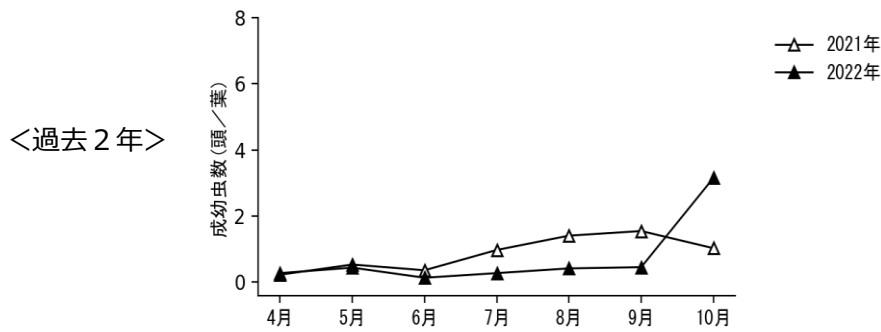
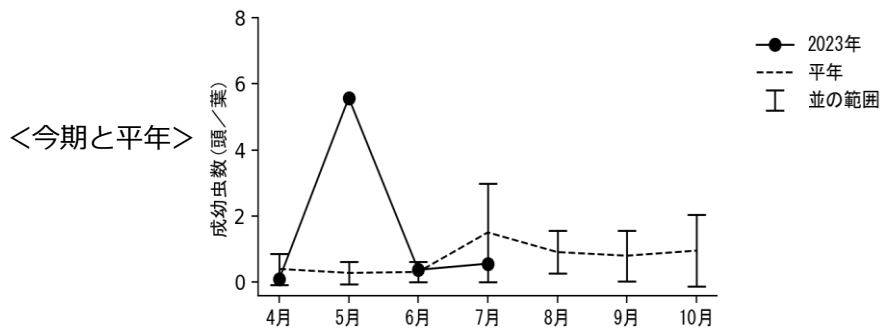


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ		地域	八重山群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ			 成虫
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並		
予報	7 月からの増減傾向	↓		
	8 月の発生量 (平年比)	やや少		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

成幼虫数の推移

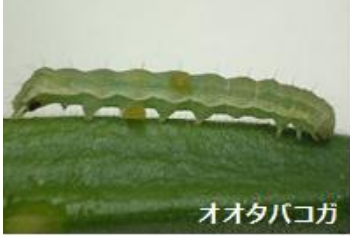


・発生ほ場率80.0% (平年 : 71.4%)

防除のポイント

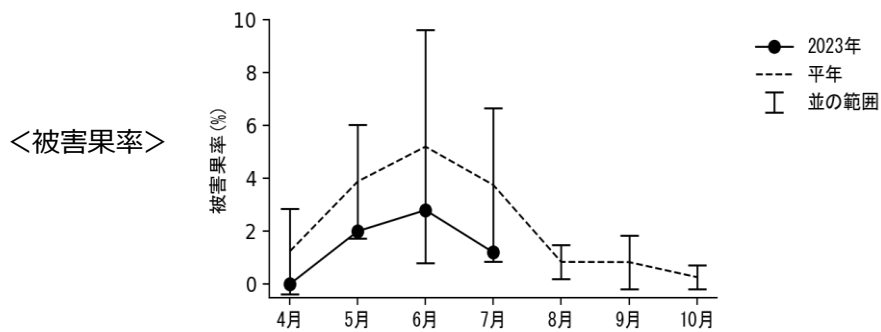
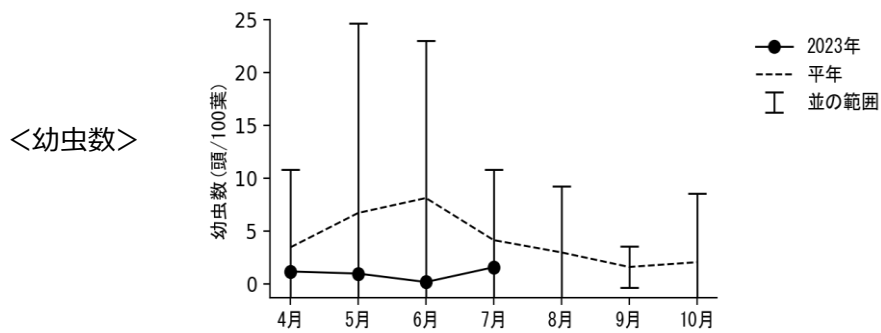
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② チョウ目幼虫		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	→	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の発生推移



- ・発生種：オオタバコガ
- ・発生ほ場率20.0% (平年：20.4%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

